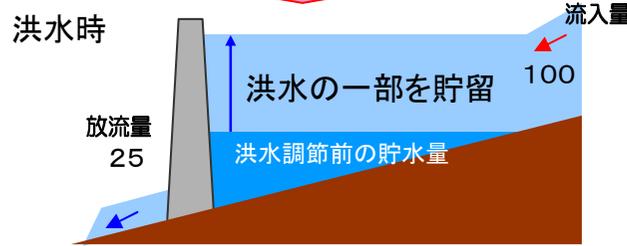
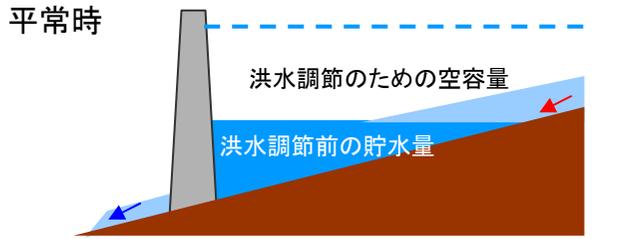
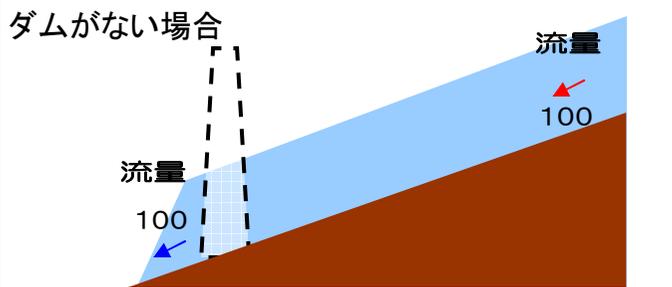


# 平成23年7月新潟・福島豪雨におけるダムの効果

## ダムの洪水調節機能(イメージ)



洪水時に、例えば、最大100流れてきた水のうち、75をダムに貯め、ダム下流河川には25だけ流します。

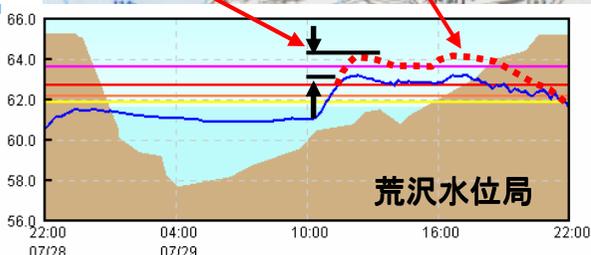


流れている100の水は、そのまま下流に流れていきます。

このイメージ例では、ダム下流河川に流れる水量は1/4になり、洪水被害を軽減します。

ダムがなかった場合の想定水位より約170cm低下させた効果があったものと推定されます。

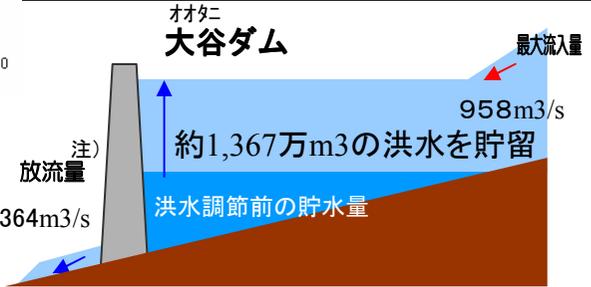
※今後の調査により数値等が変わる場合があります。



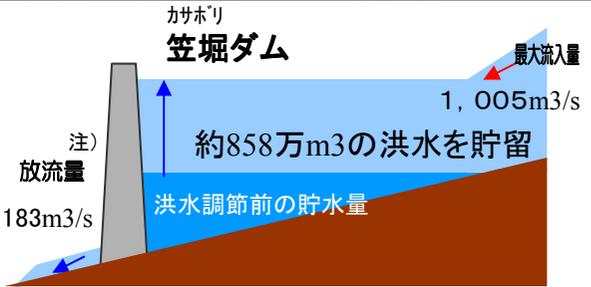
ダムがなかった場合の想定水位(イメージ)



注) 最大流入量時のダムからの放流量



最大で、958m3/s流れてきた水のうち、594m3/sをダムに貯め、下流河川に364m3/sだけ流しました。



最大で、1,005m3/s流れてきた水のうち、822m3/sをダムに貯め、下流河川に183m3/sだけ流しました。

2ダム合計で約2,225万m3(新潟県庁約129個分)の洪水を貯留し、ダム下流の河川に流れる水量を少なくすることにより、河川の水位上昇を抑え、外水はん濫による被害を抑制しました。